

ならないだろう。することは山ほどもある。個々の人がバラバラに集めたデータを一つにまとめ、その上で空白地帯を埋めていったり、新しい疑問をみつけてそれを調べたり、それこそ蝶に限っていても、まだまだ分かっていないことの方が多いだろう。アサギマダラが海岸に群舞しているという。何故だろう？ギフチョウとカンアオイ類の分布とはどういう関係にあるのだろうか？スギタニルリシジミの分布はどうなっているのか？トチノキとの関係は？杉ヶ沢の開発でゼフィルスたちはどうなるのだろうか？日本海側のウスバシロチョウは、何故太平洋側の個体より黒っぽいのだろうか？モンシロチョウとスギタニルシロチョウとの関係はどうか？サトキマダラヒカゲとヤマキマダラヒカゲとの関係はどうか？氷ノ山や扇ノ山の山頂付近にはどんなな蝶が生息しているのだろうか？

まだまだ研究テーマはいっぱいある。興味はつきないことだろう。

さあ、この但馬の自然を、但馬人の手で調べていこうではありませんか。

(いしだ たつや・学生)

＊

＊

＊

むしの会発足 にあたって

足立義弘

今迄に何回か集まり、話し合った結果、どうにか今年には当会を発足させることになりました。今後、会の活動をすすめるにあたって、今迄の経験と反省のもとに、自分なりの考えと会に対する期待を記しておきます。

まず、会として行なっていく以上、ある程度の目的意識をもってする必要があると考えます。いろいろな人が集まってくるために、それぞれの考え方のくいちがいから、会としてはまとまりのないものになる危険性が生じ

てくると思われ、ただ単に好きなもの同士の集まりであるなら、ここまではする必要はないし、各個人の目的等を満たすだけで足りるはずで、

今みながこれだけ積極的に会として行なっている以上、ある程度の積極性を感じているからではないでしょうか。

今、我々の個馬には、まだまだいたる所に自然が残されています。しかし、これらの中で各種様々な生物の環境条件がどこまで満たされているか、というような事はまだ的確につかみきれていないと思われ、我々としては——あくまで個人的な意見ですが——これらを調査し保護する立場から会を行なっていくべきだと考えます。このような活動をも自分達でやっていたい、また同時に我々がやらねば、という気持ちがあると想います。

今返一人で行なってきたものを集約すると同時に、今後会として行なっていく段階で、一人ではどうしても限界があったことも常に連絡をとりあうことによってのりこえていけると考えます。調査研究とそれに伴う情報交換と集約、これが軌道にのりだすには少し時間がかかるかも知れませんが、とにかくやってみたいと思います。なによりもまずフィールドへ出てみることです。

最後に、今返自分がやってきたなかで思ったのは、やはり自分で出かけて、見て確かめることが実に大事だということです。無計画であり、行き当たりばったりの状態でしたが、行って調べてみるということの重要性を、いうまでもないと思いますが、強調しておきます。

なお、今後の具体的な運営方法はみんなと話し合いたいと考えています。

(あだち よしひろ・電々公社勤務)